

ゴギ生息状況調査

(ホシザキグリーン財団委託研究)

曾田一志・福井克也・沖野 晃

1. 研究目的

中国地方に生息するイワナの亜種であるゴギ *Salverinus leucomaenis imbricus* は、主として島根県の河川に生息する¹⁾。近年、自然林の伐採や河川改修工事等により、その生息地や生息尾数の減少が危惧されており、しまねレッドデータブックにも絶滅危惧 I 類として掲載されている²⁾。一方、溪流釣りの対象魚としての人気も高く、本種の保護や増殖に取り組むことは重要と考えられる。本調査はゴギの保護と保全方策を考えるための基礎的な情報の提供を目的とし、島根県東部河川を対象に、ゴギの生息状況（生息密度、全長組成）を調査した。

2. 研究方法

調査は 2014 年 5 月 16 日から 2015 年 2 月 26 日にかけて斐伊川水系、伯太川水系および神戸川水系の源流部の支流を対象に電気ショッカーを用いて行った。ゴギの判別は、本種の特徴である頭部の白斑の有無によって行った。採捕後、麻酔処理（FA100：田村製薬株式会社製）を行い、全長、尾叉長、体長、体重を測定し、覚醒後に速やかに放流した。また、採捕終了後にメジャーにより調査区間の河川長と流れ幅（20m ごと）を計測した。

調査区間における生息尾数の推定は、オンラインプログラム CAPTURE³⁾ を用いて行い、その数値を基に 1m² 当たりとして生息密度を算出した。

3. 研究結果

調査は 15 地点で行い、うち 9 地点でゴギの生息が確認された。生息が確認された河川で最も生息密度が高かった地点では 0.115 尾/m² であった。生息が確認された地点で最も低かった密度は 0.010 尾/m² であった。

ゴギが採集された地点のうち平均全長が最も大きかった地点では平均 181 mm で、最も小さい地点では平均 110 mm であった。生息が確認された全地点で、当歳魚若しくは 1 歳魚と考えられる小型魚が採集されたことから、これらの地点では再生産が行われていると推定された。また、伯太川水系及び神戸川水系において近縁種であるイワナ *Salverinus leucomaenis* の生息が確認された。イワナはゴギと容易に繁殖するため、ゴギが生息する水域に移殖放流等された場合には、交雑が生じる恐れがあり、今後注意が必要と考えられる。

4. 研究成果

本調査は（財）ホシザキグリーン財団の平成 26 年度委託研究として実施した。調査で得られた結果の詳細は財団に報告を行うと共に、ホシザキグリーン財団研究報告第 19 号に掲載された。

5. 文献

- 1) 前川光司：サケ・マス生態と進化, iii. (2004)
- 2) 山口勝秀：改訂しまねレッドデータブック 2014（島根県環境生活部景観自然課監修），（財）ホシザキグリーン財団, P75 (2004) .
- 3) Rexstad E. A. and K. P. Burnham (1991) user, s guide for interactive program CAPTURE. Colorado Cooperative Wildlife Reserch Unit, Colorado State University, Fort Collins, Co.